



近畿共済安全通信

季節の変わり目である10月は花粉などのアレルギーや気圧の変化による体調不良が多くみられます。風邪薬や頭痛薬を服用する方もいらっしゃるかもしれませんが、薬のなかには、運転に悪影響を及ぼす成分が含まれているものも多くあり、眠気を催したり、注意力が低下して事故を招く恐れがあります。運転前には薬を服用しないことが一番ですが、服用する必要がある場合は、事前に医師や薬剤師に相談し、運転に悪影響を及ぼさないを選ぶようにしましょう。

眠気やだるさを招く「抗ヒスタミン剤」

風邪薬の中には、抗ヒスタミン剤が含まれているものがあります。抗ヒスタミン剤は風邪の症状を和らげる反面、眠気を催したり、体が怠くなったりします。そのため、注意力が低下したり、反応時間が長くなったりして、事故を起こす場合もあります。服用には十分に注意する必要があります。



頭がぼんやりしてしまう「鎮痛剤」

頭痛などに用いられる鎮痛剤も運転に影響を及ぼすことがあります。鎮痛剤の痛みを止める効果は、服用後30分から60分ほど経ってから表われますが、同時に頭もぼんやりして、判断力や注意力が低下してしまいます。運転中に思わぬミスを招くことにもなりかねません。不安がある場合には、医師や薬剤師に相談しましょう。

